

幸松地区公民館・幸松第二公民館

◇運営の基本方針

生涯学習拠点施設として、地域住民の身近な学習・交流活動の場として親しみをもって来館できる公民館を目指す。

◇重点施策

- 1 地域住民の健康増進と住民相互の理解と交流を深め、学習機会の充実と公民館利用の促進を図る。
- 2 家庭教育の充実と青少年の健全育成を図る。
- 3 各種関係組織・団体との連携を図りながら、事業展開を図る。

◇重点事業

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1 こうまつ寺子屋 | 2 家庭教育学級 | 3 スポーツ広場 |
| 4 幸松地区体育祭 | 5 幸松ふれあい文化祭 | |

幸松地区公民館

所在地 〒344-0004 春日部市牛島667番地1
幸松市民センター内

TEL・FAX 048-752-6065

E-mail komatsukou@city.kasukabe.lg.jp



幸松第二公民館

所在地 〒344-0007 春日部市小湊73番地1

TEL・FAX 048-761-5510

E-mail komatsu2kou@city.kasukabe.lg.jp



職員	館長（兼務）	吉田 美智代
	主査（兼務）	當間 雄一郎
	主任（兼務）	宇内 啓介
	主任（兼務）	蛭間 博文
	主事（兼務）	段 春菜
	フルタイム（兼務）	磯野 良英
	フルタイム（兼務）	大石 富美代
	フルタイム（兼務）	猪村 康代美
	フルタイム（兼務）	和田 泉

事業名 テーマ	スポーツ広場 バドミントン・卓球の施設開放		対象	一般		定員	バドミントン 6名 卓球 24名	
ねらい	体育室をバドミントン・卓球の会場として無料開放し、スポーツを通じて健康増進を図るとともに地域住民の交流を深める。							
協力機関 及び団体			特色 位置づけ			SDGs の目 標No	3	
会場	幸松地区公民館 体育室		教材 資料等	卓球台・ネット・支柱等				
実施までの経過	公民館だよりに掲載		PR方法	公民館だよりに掲載。実施日の前月、前々月に案内する。				
			受付方法	開催月の1か月前の月から受付				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計	合計		
4月7日(日) 3月16日(日)	第一・第三日曜日 4時間 第二土曜日 3時間30分	体育室を無料開放する。 第一・第三日曜日 8:30～10:00 バドミントン 10:00～12:30 卓球 第二土曜日 9:00～12:30 卓球	実技	150	242	392		
31回	119時間30分			150	242	392		
企画運営 上の工夫	年齢・体力等に合わせて活動できるように、選択できるスポーツをバドミントンと卓球の2種目とした。							
成果 参加者の 声 など	初めて参加する人には常連の人が利用の仕方を教えており、準備・後片付けにいたっては参加者同士が協力しあいスムーズに行われている等、地域住民同士のふれあいの場となっている。また、参加者が卓球のサークルに加入することもあり、サークル活動の活性化にもつながっている。							
課題と展望	卓球が人気で常連以外の参加も多く、日によっては参加者が定員寸前になるほど盛況である。市民の交流・健康増進の場となっている事業であるので、今後も継続していきたい。卓球以外の種目(現行はバドミントン)でも参加人数が増えるようにしたい。							

事業名 テーマ	子育てサロン		対 象	乳幼児とその保護者		定 員	10組	
ね ら い	親子で気軽に立ち寄り、育児の不安・悩みなど、子育てについて共に学び、親子が集う場とする。							
協力機関 及び団体	幸松地区民生委員・児童委員協議会 更生保護女性会		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4	
会 場	幸松地区公民館 講堂		教 材 資 料 等	おもちゃ・絵本・工作用具等				
実施までの経過	毎月公民館だよりに掲載		PR方法	公民館だよりに掲載 子育て情報メール				
			受付方法	事前受付				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
4月17日(水)	10:00～11:30	こいのぼりで遊ぼう！	遊び 対話	2	4	6		更生保護女性会 幸松地区民生委員・児童委員協議会 
5月15日(水)		風船で遊ぼう！		2	4	6		
6月19日(水)		七夕飾りをつくろう！		5	11	16		
7月17日(水)		紙コップで遊ぼう！		0	4	4		
8月21日(水)		牛乳パックで遊ぼう！		0	8	8		
9月18日(水)		ママのリラクゼーションヨガと親子で工作をして遊ぼう！		4	10	14		
10月16日(水)		ハロウィンで遊ぼう！		0	4	4		
11月20日(水)		パネルシアター		2	11	13		
12月18日(水)		クリスマスバルーン！		4	8	12		
1月15日(水)		豆まきをしよう！		3	3	6		
2月19日(水)		ひな祭を楽しもう！		3	5	8		
3月19日(水)		育児相談会		0	0	0		
12回	18時間			25	72	97		
企画運営上の工夫	・毎月、季節に合わせた簡単な工作などを企画し、参加者の興味をひくよう工夫した。 ・安全面に配慮した会場づくりを意識した。(ステージ上への階段の撤去等)							
成 果 参加者の声など	リピート率が高く、アットホームな雰囲気の中で、親だけではなくスタッフも、子どもたちの成長を感じることができた。参加者からは「子どもだけではなく、親もリラックスして楽しめる」などの感想をいただいた。							
課題と展望	・年々、参加者が減少しているため、企画や周知方法を工夫して、参加者を集めていきたい。 ・親同士・子ども同士の交流の場や、育児の息抜き・気分転換の場となっているので、今後も継続していきたい。							



③

事業名 テーマ	こうまつ寺子屋 ⑤親子で学ぶお金のキホン講座 ⑥星空観察教室 ⑦自筆証書遺言書の書き方講座 ⑧シニア世代のスマホ教室		対 象	⑤小学生とその保護者 ⑥小学生とその保護者 ⑦成人一般 ⑧幸松地区在住の 65歳以上の方		定 員	⑤15組30名 ⑥15組30名 ⑦20名 ⑧20名
ね ら い	市民生活に身近なテーマを取り上げ、地域住民の教養を高める。						
協力機関 及び団体	⑤明治安田生命保険相互会社 ⑥幸松地区生涯学習市民推進員 ⑦幸松地区生涯学習市民推進員 ⑧春日部市行政デジタル改革課 暮らしの安全課		特 色 位置づけ	重点事業 ⑥⑦生涯学習市民 推進員共催事業		SDGs の目 標No	4
会 場	幸松市民センター⑤研修室A・B、⑥⑦⑧講堂		教 材 資 料 等	⑤レジュメ ⑥レジュメ・星座早見表 ⑦レジュメ ⑧レジュメ			
実施ま での経 過	4月下旬 ⑤⑥⑦企画・立案・講師決定 5月中旬 ⑤講師依頼 9月上旬 ⑥⑦講師依頼 10月上旬 ⑧企画・立案・講師決定 11月～12月 ⑧講師依頼		PR方法	公民館だよりに掲載 安心安全情報メールにて周知			
			受付方法	⑤7月24日(水)9:00～窓口・電話申込み ⑥10月26日(土)9:00～窓口・電話申込み ⑦11月1日(金)9:00～窓口・電話申込み ⑧12月13日(金)9:00～窓口・電話申込み			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
8月23日(金)	10:30～12:00	「お金の使い方」や「お金との付き合い方」	講義	2	4	6	明治安田生命保険相互会社 中野俊之
12月7日(土)	17:30～19:30	星座早見表作成(座学) 星座・流星群説明(野外観察)	講義 実習	5	17	22	草加天文愛好会 三田明
12月11日(水)	13:30～15:30	自筆証書遺言書の説明 自筆証書遺言書の作成等	講義	6	5	11	生涯学習市民推進員 行政書士 赤堀良孝
1月31日(金)	13:30～15:00 15:30～17:00	スマートフォンとインターネットの基礎 インターネットを利用した犯罪 について	講義	①3 ②2	①7 ②7	19	行政デジタル改革課職員 暮らしの安全課職員
4回	8時間30分			18	40	58	
企画運営上 の工夫	⑤親子で学べるように開催期間を夏休みに選んだ。⑥本格的な天体望遠鏡等を使った夜空の観察を行うことで、子どもたちに天体への興味・関心を持ってもらうきっかけとした。⑦行政書士であり、幸松地区の生涯学習市民推進員であった赤堀氏を講師に迎え開催した。⑧インターネットを利用するための基礎知識を習得するとともに、インターネットを利用した犯罪被害の知識も学習し、デジタル社会を生活する上での助けとなるような講座とした。						
成果 参加者の 声 など	⑤講師の方が子どもに対して、分かりやすい説明と質問形式で展開された為、小学生でも理解しやすい講義となった。⑥事業当日は曇ってしまったが雲の切れ目から月や星を観察できた。参加者からは講師の説明が分かりやすかった等の感想が寄せられた。⑦「資料が非常に充実していた」、「わかりやすい説明で理解できた」など、参加者から高い評価を得た。⑧「やさしく教えてもらった」、「操作方法が分かってよかった」などの声が多く聞かれ盛況であった。						
課題と展望	⑤参加者が少ない結果となったため、日程を夏休み前半に設定し事前周知を徹底するなどの対策をしていきたい。 ⑥今回は参加者の体調不良による欠席、天候急変、突発的な出来事への対応が求められたが、そのような場合でも慌てることがないよう、事前に様々なことを想定したプログラムを準備していきたい。 ⑦講座の内容が複雑であったことから、同様の講座を開催する際は、講師との打合せを密に行い内容に見合った回数時間を確保して、より充実した講座となるよう配慮していきたい。 ⑧受講者からは頻繁に開催してほしいとの意見があったことから、講座の開催回数等を増やす検討をしていきたい。						



事業名 テーマ	公民館利用団体共催 オープン講座 姿勢美ピラティス		対象	成人一般		定員	25名
ねらい	利用団体と共催で事業・展示会を実施し、利用団体の会員増加につなげるとともに、各団体の活動を広め、地域の活性化に寄与する。						
協力機関 及び団体			特色 位置づけ	年間をとおして利用団体と共同で講座や展示会を開催		SDGs の目標No	4
会場	幸松市民センター 講堂		教材 資料等				
実施までの経過	3月1日(金) 講師依頼 3月22日(金) 打合せ 4月1日(月) 公民館だより掲載 4月4日(木) 申込み開始 4月26日(金) 実施		PR方法	公民館だより4月号掲載			
			受付方法	4月4日(木)9:00～幸松市民センター窓口もしくは電話にて申込み開始(先着順)			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
4月26日(金)	10:00～11:00	ピラティス	実技	1	26	27	大河内 麻江
1回	1時間			1	26	27	
企画運営上の工夫	講師と共同作業で公民館だよりの記事を作成した。講師の意見を反映させ、ピラティスを認知していない方でも、興味を持って参加できるようなタイトルや構成とした。						
成果参加者の声など	申込み開始後、数日で定員25名に達し、キャンセル待ちが発生する状況であった。参加者からは、「心地よく身体を動かして、リフレッシュできた」、「無理なく楽しくできました」等の声をいただき、大変盛況であった。						
課題と展望	ここ数年、体操系(ヨガやピラティス等)での講座実施が続いている。今後は絵画や写真等の展示系の団体にスポットをあて、別の角度からオープン講座を展開することで公民館事業の活性化を計っていく。						

事業名 テーマ	折紙で作る干支飾り「巳(み)」		対 象	一般		定員	15名	
ね ら い	昔ながらの遊びで余暇の活用と物を作る楽しさを体験してもらい、参加者同士が交流しながらふれあいを深める機会とする。							
協力機関 及び団体	おりがみ		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4	
会 場	幸松第二公民館 大会議室		教 材 資 料 等					
実施までの経過	5月中旬 講師折衝 9月上旬 打ち合わせ 10月1日(火) 公民館だより掲載 ポスター掲示 申込み受付開始 11月27日(水) 事業実施		PR方法	公民館だより10月号掲載 ポスター掲示				
			受付方法	10月1日(火)9:00～幸松第二公民館窓口もしくは電話で申込み(先着順)材料費500円は当日徴収				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
11月27日(水)	10:00～12:00	季節の作品 折紙で干支飾り「巳(み)」を作成 	実習	0	14	14	おりがみ 中山ナホ子	
1回	2時間			0	14	14		
企画運営上の工夫	毎年折紙で作る干支飾りが好評なので、簡単にできる季節に合った作品の講座を企画し、講師は公民館で活動しているサークルに無償でお願いした。学習がしやすいように、作品の各パーツの準備を整えておいてもらった。また、事前にサンプルとなる作品を展示し、関心を持ってもらう機会をつくった。							
成果 参加者の声など	「難しかったが教えていただいて良かった。作り方の手順の資料があればさらによい」「皆さんで楽しい時間をすごせました」「来年も是非開催していただきたい」などの声をいただき、おおむね好評の結果が得られた。							
課題と展望	作品が完成したときの達成感を実感してもらえるのが、当事業の醍醐味である。解説資料を充実させ、アシスタントを配置するなど、参加者が「ものづくり」を楽しんでもらえるような企画としていきたい。 また、協力団体のサークルに興味を持った参加者がいたことから、当事業が新規会員開拓の足がかりとなるような場としていくことも検討したい。							

事業名 テーマ	幸松地区体育振興会 ①第2回ボッチャ大会 ②第16回グラウンドゴルフ大会 ③第23回スマイルボウリング大会	対象	①地区在住者 (小学3年生以上) ②地区内在住の成人 ③地区在住者 (小学4年生以上)	定員	①10チーム (1チーム3名) ②16チーム (1チーム3名) ③14チーム (1チーム5名)		
ねらい	スポーツを通じて、地域住民の健康の増進と親睦を図る。						
協力機関 及び団体	幸松地区体育振興会	特色 位置づけ		SDGs の目 標No	3・4		
会場	①③幸松市民センター ②牛島小学校	教材 資料等					
実施までの経過	4月20日(土) 第1回体育振興会 理事会開催 5月18日(土) 体育振興会総会 5月25日(土) 第2回体育振興会 理事会開催 8月4日(日) 第2回ボッチャ大会開催 11月17日(日) 第16回グラウンドゴルフ 大会開催 12月8日(日) 第23回スマイルボウリング 大会開催	PR方法	公民館だより6・10月号掲載				
		受付方法	①6月15日(土)9:00～直接 幸松市民センター窓口へ申込み ②10月12日(土)～11月6日(水)に直接 幸松市民センター窓口へ申込み ③11月6日(水)～11月24日(日)に直接 幸松市民センター窓口へ申込み				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計		合計
8月4日(日)	9:00～12:00	第2回ボッチャ大会	競技	6	22	28	幸松地区体育振興会
11月17日(日)	9:00～12:00	第16回グラウンドゴルフ大会		12	24	36	
12月8日(日)	9:00～12:00	第23回スマイルボウリング大会		2	21	23	
3回	9時間			20	67	87	
企画運営上の工夫	・競技参加者に対して成績上位者だけでなく飛賞などを設けるなど工夫して賞品を授与するなどすることで、参加者が有意義な時間を過ごし、また参加してよかったと思えるような内容になるよう企画運営を行った。						
成果参加者の声など	①今年は子どもの参加があり、全体の参加者も昨年よりも増えた。また、参加者全員が十分に楽しめるように組み合わせなど工夫し、また順位によって賞品も出したことで皆競技に夢中になり楽しんでいる姿が多く見られた。 ②・③成績により賞品がもらえてうれしかったとの声や参加者同士での交流も図れ、楽しい時間が過ごせてよかったとの声が多く聞かれ大変好評であった。						
課題と展望	今回は、初めて子どもの参加があり、また参加者も大会によっては増えたので、来年度以降も事業のPR方法など工夫して、幅広い年齢層の方に参加してもらえるようにしていきたい。						

事業名 テーマ	幼児家庭教育学級 親子のコミュニケーション		対 象	未就学児と その保護者		定員	15組 30名
ね ら い	幼児期の発育を正しく理解し、家庭における教育の在り方について学ぶ。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ	子育て支援事業		SDGs の目 標No	4
会 場	幸松市民センター 講堂		教 材 資 料 等	レジュメ			
実施ま での 経 過	12月上旬 講師依頼 1月中旬 講師打ち合わせ 地区内幼稚園等に周知 2月1日(土) 公民館だより掲載 2月8日(土) 募集開始 2月22日(土) 実施		PR方法	公民館だより2月号掲載 子育て情報メール配信 地区内の幼稚園・保育園・ 児童センターに周知 (チラシ配布等)			
			受付方法	2月8日(土)9:00～ 幸松市民センターに直接または 電話で申込み			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
2月22日(土)	10:00～12:00	親子での遊びを通して子ども とのコミュニケーションのあり方 を学ぶ。	実技	9	13	22	(株)コマーム 子育て研究室顧問・ 保育士 與語正子・和泉早苗
1回	2時間			9	13	22	
企画運営上 の 工 夫	・平日、仕事をしている保護者が参加しやすいよう、土曜日の開催とした。 ・実技を伴う事業の中ではメモを取ることが難しいことから、講師と事前の打合せを行 い、予め別途要点をまとめた資料を用意し、参加者が持ち帰って活用できるようにし た。						
成 果 参加者の 声 など	・当日行った学習が資料で確認できたこと、また、参加者同士の交流が図れたことにつ いて、一定の成果が得られた。 ・参加者の声としては「他の保護者との交流が図れて良かった。」「疑問に思っていた ことに的確なアドバイスをいただけたのでスッキリした。」等の感想が寄せられた。						
課題と展望	子育て世代のニーズは、それぞれの家庭環境等によって多種多様であるため、このよう な講座の開催にあたっては、しっかりとした目的を持った事業展開に努めていきたい。						

幸松地区 9

事業名 テーマ	第70回幸松地区体育祭		対 象	幸松地区内住民		定員	定めず	
ね ら い	地域住民の体育・レクリエーションの祭典。健康の増進と体力の向上を図るとともに地域の連帯感の高揚を図る。							
協力機関 及び団体	幸松地区自治会連合会 幸松地区体育振興会 幸松地区ソフトボール同好会 松寿会幸松地区連合会		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	3・11・17	
会 場	東中学校 校庭		教 材 資 料 等	競技用具一式				
実施ま での 経 過	5月19日(日) 春日部市民体育祭 実行委員会 6月4日(火) 第1回幸松地区体育祭 幹部会議 6月8日(土) 体育祭第1回実行委員会 7月20日(土) 体育祭実行委員会役員会 9月10日(火) 第2回幸松地区体育祭 幹部会議 9月21日(土) 体育祭第2回実行委員会 10月13日(日) 第70回幸松地区体育祭		PR方法	地区内幼稚園、小・中学校、高校、 特別支援学校へのポスター掲示依頼 各自治会にポスター掲示依頼 体育祭プログラムの各戸配布				
			受付方法	自由参加種目:申込不要 地区対抗種目:8月31日(土)までに 地区内で選出 当日受付種目:当日受付				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
				男	女	合計		
回 数	総時間数		計	計				
10月13日(日)	9:00～15:00	・地区対抗種目 5競技 ・自由参加種目 12競技 ・団体種目 1競技	競技	950	650	1600	幸松地区体育振興会	
1回	6時間			950	650	1600		
企画運営上 の 工 夫	・実行委員会を組織して大会運営に当たった。 ・多世代交流や大会参加者増を目的とした「健康ふれあい奨励費」を活用し財源確保に努めた。 ・体育祭会場である東中学校の吹奏楽部員や生徒のボランティアに協力してもらい、学校と地域の連携を図った。							
成 果 参加者の 声 など	昨年度、コロナ感染症の影響で5年ぶりに開催して、大いに盛り上がりを見せていたが、今年度は、参加者が減少してしまった。体育祭自体は、大きなトラブルなく無事に開催できたが、参加者から「今年は少し寂しい」との意見があった。							
課題と展望	ここ何年も、競技種目を変更していないため参加者が減少したことと同日や前日などで市内で大きなイベント開催や学校の運動会の開催などが重なった影響もあったことから、来年度は、体育祭のプログラムを一部刷新したり、他のイベントや行事と重ならないように日程調整を行うなど工夫が必要であると感じた。							

事業名 テーマ	第36回幸松ふれあい文化祭		対 象	公民館利用者及び幸松地区に在住・在勤・在学する方及び一般		定員	なし	
ね ら い	地域の住民の文化・スポーツ活動の学習成果の発表の場及び地域住民のふれあいの場とする。							
協力機関 及び団体	第36回幸松ふれあい文化祭実行委員会 協賛: 幸松地区自治会連合会		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	4・11・ 17	
会 場	幸松市民センター 全館		教 材 資 料 等	プログラム				
実施ま での 経 過	6月1日(土) 公民館だより掲載 7月3日(水) 参加団体申込受付開始 8月9日(金) 参加団体申込〆切 8月1日(木) ボランティア募集開始 9月7日(土) 第1回実行委員会 9月6日(金) ボランティア募集〆切 10月1日(火) 公民館だより掲載 10月26日(土) 第2回実行委員会 11月5～8日 文化祭準備 11月9～10日 実施		PR方法	公民館だより「ふじの里」6・8・10月号に掲載				
			受付方法	参加団体:7月3日(水)～8月9日(金)までに幸松市民センター・幸松第二公民館の窓口で配布する申込用紙を提出。 来場者:自由観覧				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
11月9日(土) 11月10日(日)	11:00～16:00 10:00～15:00	展示・体験・ステージ発表 		426	703	1129	参加団体 展示(体験部門)7団体 ステージ発表部門11団体 小中学校作品展示5校	
2回	10時間			426	703	1129		
企画運営上 の 工 夫	・参加団体が自らの意思で、企画し、運営することを尊重し、運営を「実行委員会形式」とする。実行委員会が十分に機能し、参加団体が満足する文化祭が作り上げられるよう、事務局の支援体制を整えた。 ・小学校、中学校の児童・生徒の作品展示を設けるとともに、ステージ発表に子どもたち中心の団体に参加してもらう等、異なる世代間の交流が図られる空間作りを目指した。 ・一般来場者確保のため「公民館まつり」と同時開催とした。							
成 果 参加者の 声 など	「初めて訪れたが、楽しい一日を過ごせた」、「参加団体が皆、一生懸命取り組んでいてよかった」等の声をいただき、来場者と参加団体、両者が満足できる文化祭となった。							
課題と展望	参加団体の減少、固定化が見受けられる。地域の交流の場となっている文化祭が今後も継続できるよう、参加団体、来場者の増加を目指して、内容や広報を工夫し、事業の充実を図りたい。							

事業名 テーマ	こうまつ音楽祭 ①幸松市民センター・こうまつ音楽祭 ②こうまつ第二公民館・新春コンサート		対象	一般		定員	①100名 ②80名	
ねらい	音楽を通して住民の交流の場とする。また、子どもから大人まで音楽に気軽に触れられる機会の提供をする。							
協力機関 及び団体	①春日部共栄OBOG吹奏楽団、Weed-X ブラグド(音響補助)、DROPS(ダンス) ②マハロ・ウクレレ、グリーンローズ(ダンス)		特色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	4	
会場	①幸松市民センター 講堂 ②幸松第二公民館 大会議室		教材 資料等	パンフレット				
実施ま での経 過	3月21日(木) ①企画・立案・出演折衝 5月11日(土) ①演奏者打合せ 8月1日(木) ①公民館だより掲載 8月31日(土) ①チケット配布開始 9月28日(土) ①AMリハーサル 13:00～演奏開始 8月上旬 ②企画・立案・出演折衝 10月中旬 ②演奏者打合せ 12月1日(日) ②公民館だより掲載 1月11日(土) ②リハーサル 1月18日(土) ②10:30～演奏開始		PR方法	①公民館だより8月号掲載 ②公民館だより12月号掲載 				
			受付方法	①8月31日(土)9:00～幸松市民センター 窓口にてチケット配布(先着順) ②12月1日(日)9:00～幸松第二公民館 窓口または電話にて申込み(先着順)				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
①9月28日(土)	12:30～15:40	吹奏楽とPOPSの演奏	演奏	18	75	93	①・春日部共栄OBOG 吹奏楽団 ・Weed-X ・ブラグド(音響補助) ②・マハロ・ウクレレ ・グリーンローズ	
②1月18日(土)	10:30～12:00	ウクレレ演奏と フラダンス鑑賞	演奏	9	67	76		
2回	4時間40分			27	142	169		
企画運営上 の工夫	①会場の混雑を避けるためにチケット制にした。また異なるジャンルの音楽を楽しんでもらうために二部構成にした。 ②昭和歌謡を皆さんで歌い、途中にフラダンスを鑑賞できるようにし、参加者同士の連帯感を高めるような環境を提供した。							
成果 参加者の 声など	①演奏者が、軽快なMCやダンスパフォーマンス等、演奏以外の演出にも工夫を凝らした結果、観客の満足度がとても高い音楽祭となった。 ②「昭和歌謡と一緒に歌えてよかった」との声をいただき、参加者の連帯感を高める音楽祭にすることができた。							
課題と展望	①可能な限り演奏会場全体の環境を整え、演奏以外の部分にも配慮していきたい。また、配布予定 チケットが開催前早々に完配となる程関心の高い事業であることから、今後も継続して実施していきたい。 ②アンケート結果にて、音楽祭を「知人から知った」が45%を占めており、良好な地域コミュニティの形成が実感できた。今後は形成された地域コミュニティが、維持されるのを助ける役割を公民館が担っていけるようにしたい。							

事業名 テーマ	利用者のつどい		対 象	公民館利用者		定 員	各団体は 2名まで
ね ら い	公民館利用者と公民館の連絡及び利用者相互の交流の場とする。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4
会 場	幸松市民センター 講堂		教 材 資 料 等	レジュメ			
実施ま での 経 過	11月下旬 窓口にて案内配布開始 12月1日(日) 公民館だより掲載 1月16日(木) 実施		PR方法	公民館だより12月 号掲載 窓口にて公民館利用団体に申込 書を配布			
			受付方法	1月9日(木)までに、公民館窓口に て参加申込書を提出(団体は2名ま で)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男	女	合計	
				計	計		
1月16日(木)	10:00～10:50	公民館利用に関すること サークル・団体運営に関すること 公共施設予約システムの利用説明	説明	2	33	35	公民館職員
1回	50分			2	33	35	
企画運営上 の 工 夫	・公民館利用団体の代表者に出席してもらい、公民館利用ルールの再確認及び公民館運営に関する情報伝達の間とした。団体だけではなく、個人利用者の参加も可とした。						
成 果 参加者の 声 など	・公民館利用方法について再認識する場とすることができた。また、市民センターに関する内容について情報共有を図ることができた。 ・災害時等に迅速かつ冷静な避難行動が取れるように、施設の避難経路図を配布して訓練を実施し、防災意識の向上を図ることができた。						
課題と展望	公民館利用について、再確認する場ではあるが毎年内容が変わり映えない。実施の都度、内容について見直し等を行い、開催を重ねるごとに充実した事業となるように継続していきたい。						

事業名 テーマ	人権教育研修会		対 象	公民館利用者		定員	各団体 2名以下	
ね ら い	人権問題について、正しい理解と認識を深める。							
協力機関 及び団体	社会教育課		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・5・10	
会 場	幸松市民センター 講堂		教 材 資 料 等	人権啓発DVD				
実施ま での 経 過	12月1日(日) 公民館だより掲載・募集 開始 1月16日(木) 実施		PR方法	公民館だより12月号掲載 利用団体へ開催通知				
			受付方法	12月1日(日)～1月9日(木)に、幸松 市民センター、幸松第二公民館の 窓口で申込み				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
1月16日(木)	10:50～11:20	人権啓発DVD 「家庭からふりかえる人権 話せてよかった」	鑑賞	2	33	35		
1回	30分			2	33	35		
企画運営上 の 工 夫	他の公民館事業(「利用者のつどい」と同時開催にすることで、より多くの方に人権に関 する問題を意識してもらうきっかけを作った。							
成 果 参加者 の声 など	参加者全員が真剣なまなざしでDVD動画を鑑賞している様子から、人権に対する啓 発や知識の習得が図れたものと見受けられる。							
課題と展望	例年DVD教材の鑑賞を実施をしているが、実施後の見直しを常に行い、よりよい内容 で展開できるよう意識しながら継続していきたい。							

事業名 テーマ	サークル体験会	対 象	一般	定員	—		
ね ら い	公民館利用サークルを紹介し、サークル活動の促進と利用の活性化を図る。						
協力機関 及び団体	体験会参加サークル	特 色 位置づけ		SDGs の目 標No	4		
会 場	幸松市民センター・幸松第二公民館	教 材 資 料 等					
実施ま での 経 過	10月1日(火) 公民館だより掲載 参加団体募集開始 10月31(木) 参加団体募集〆切 11月15(金) 募集〆切 延長 2月1日(土) 公民館だより掲載 参加者募集開始 3月1日(土) サークルの見学・体験 ～ 3月30(日)	PR方法	公民館だより10月 号掲載 ポスター・チラシ配布				
		受付方法	2月1日(土)より、幸松市民セン ター・幸松第二公民館へ直接また は電話で申込み。				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計		合計
3月1日(土) ～ 3月30日(日)		サークル活動の見学・体験	体験	10	54	64	各団体
				10	54	64	
企画運営上 の 工 夫	日ごろ公民館を利用しているサークルの活動に興味関心を持っている方に、参加する きっかけ作りを行う。また、体験会を行うことで利用サークルの広報を行う。 公民館だよりに掲載することで参加を促すとともに、公民館サークルを紹介する。						
成 果 参加者の 声 など	参加団体14団体に64人の体験者がいた。そのうち14人が入会し一定の成果が得られ た。体験参加者からは「ポイント指導により理解も深まり、中身の濃い時間だった。楽し く学べた」との声を頂いた。また体験会参加団体から「今後は、公民館と一緒に講座や 教室を開催したい」と要望もあった。						
課題と展望	より多くの方にサークル体験会に参加してもらえるように早めの周知計画をしていき たい。サークル紹介ポスターを新たに作成し掲示することでサークル活動の広報を支援し ていく。また、サークル団体と共同開催で事業を展開し、公民館活動の活性化を図って いきたい。						

事業名 テーマ	幸松第二公民館利用者作品展		対 象	幸松第二公民館 利用サークル 来館者		定 員	—
ね ら い	公民館利用サークル会員に発表の機会を提供するためロビーを展示スペースとして活用し、地域住民に鑑賞の場を設ける。						
協力機関 及び団体	参加希望サークル		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4
会 場	幸松第二公民館ロビー		教 材 資 料 等				
実施ま での 経 過	4月～3月 随時展示作品申込 季節の作品を展示 (新しい作品ができ次第 随時展示)		PR方法	公民館だより、公民館ブログ			
			受付方法	幸松第二公民館窓口にて申込み (随時) 自由観覧			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計		
4月～3月		季節に因んだ作品及び サークル活動作品の展示	展示 観覧				おりがみ 金曜会 松寿会
12回							
企画運営上 の 工 夫	・ロビーに展示スペースを設け、より多くの作品を飾り、来館者の目に触れてもらうようにした。 また、レイアウトも作品が引き立つように工夫して展示した。 ・公民館利用団体などへ直接声掛け、幸松第二公民館ブログへの掲載等、広く作品を紹介できるようにした。						
成 果 参加者の 声 など	・季節を感じる作品は、来館者が興味を持って会場に足を運ぶきっかけとなり、作成者と来館者が互いにコミュニケーションがとれる場となった。 ・作成者は作品を披露できたことで出展者からとても喜ばれ、次回作の意欲につながった。						
課題と展望	・展示スペースが限られているため、作品数との兼ね合いが難しい時があった。今後はより多くの作品が展示できるように、良い展示方法を考えていきたい。 ・展示内容の変化などにより、新たな視点で広く興味をもってもらえる作品展示に務めていきたい。						

事業名 テーマ	幸松地区防災のつどい		対 象	幸松地区在住者		定 員	20名	
ね ら い	突発的な自然災害から、自分や家族・地域を守ることができるよう、日頃から防災訓練等を実施して知識等について学ぶ。							
協力機関 及び団体	春日部市危機管理防災課 牛島地区自主防災会		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	13	
会 場	幸松市民センター		教 材 資 料 等					
実施ま での 経 過	8月中旬 危機管理防災課との打合せ 10月中旬 牛島自主防災会との打合せ 11月中旬 自衛消防訓練通知提出 12月1日(日) 公民館だより発行 12月上旬 危機管理防災課との打合せ 12月7日(土) 申込受付開始 12月21日(土) 前日準備 12月22日(日) 実施		PR方法	公民館だより12月号				
			受付方法	12月7日(土)～幸松市民センターへ直接または電話で申込み				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
12月22日(日)	10:00～12:00	能登半島地震における避難所の実態について 防災訓練(簡易ベッド組立訓練・避難所受付開設訓練)	講義 実技	31	25	56	危機管理防災課職員 公民館職員	
1回	2時間			31	25	56		
企画運営上の工夫	・幸松地区において、各自治会等では自主防災組織を中心とした防災訓練は行っていたが、地区全体では実施していなかったため、地区内住民を対象にして実施をすることで、地区内住民に防災に関する知識等を学ぶ機会を提供する。 ・幸松市民センターが災害時等で避難所になることから、有事の際の避難所の受付運営や避難誘導訓練、簡易ベッド・間仕切りなどの組立を実際に体験してもらい、有事の際に速やかな対応が取れるようにする。							
成 果 参加者の 声 など	参加者全員がほぼ満足できたとの声が聴かれた。「実際に能登地震で現地に派遣された職員の生の声が聴けたのはとても勉強になった。」、「中学生が参加してくれて嬉しかった。」、「参加して初めてわかることがある」などの意見が多く聞かれた。							
課題と展望	毎年アンケート結果でも意見として挙がっているが、開催時期について検討をしていきたい(温暖な時期に開催する等)。また、内容についても訓練の内容を見直しながら実施していきたい。							